

ビジネス・ソフトウェア・アライアンス監査催告の対処方法

企業は、会社のコンピュータにインストールされているソフトウェアの監査と会計を要求するビジネス・ソフトウェア・アライアンス（BSA）からのレターの受取人となることがある。要求される監査とは、BSA／著作権所有者のために損害賠償を請求する目的で、著作権のあるソフトウェアの不正インストールを発見することを意図する。受取人には不運なことに、この監査勧告によって、ささいな不都合から費用がかかり長期化する訴訟までの多岐にわたる手続きが開始される。

BSA とは誰で、どんな権限を有するのか。

BSA は、Microsoft や Adobe のような巨大ソフトウェア企業を代表する業界グループである。BSA の主要な役割の 1 つは、エンドユーザーによるライセンス侵害に対して、会員企業が知的財産権を保護する支援をすることである。例えば、BSA は、Adobe または Microsoft のプログラムを不法に／ライセンスを受けずにインストールしている会社に対して訴訟を起こす権限を有する。実際問題として、BSA は、購入領収書のない全てのソフトウェアインストールを不法と見なすことに留意されたい。不満を持つ従業員や元従業員が違反の可能性について BSA に内報することが度々ある。情報提供者に BSA が金銭的報酬を支払う可能性があることが、通報を一層後押ししている。

監査手続きとは、どういう仕組みか。

この手続きは、企業に業務で使用するマシンにインストールされているソフトウェアの監査をするように指示する BSA からのレターで始まる。一般に、レターは Adobe Acrobat または Microsoft Office のような具体的なベンダーおよび／または製品を特定する。監査は、企業の内部スタッフまたは外部の企業が行ってよく、全てのコンピュータと監査対象ソフトウェアの全てのバージョンを明らかにすべきである。監査にあたって、無償ソフトウェアを不注意にライセンスを受けていないソフトウェアと特定しないように注意する。監査が完了すると、結果を、入手可能な購入の証拠またはインストール認証と共に BSA の弁護士に送付する。たいていの場合、会社では、マシンにインストールされているが、購入の証拠を添えて釈明できないソフトウェアのコピーが必ず発見される。例えば、マシンの中には、削除されていない古いバージョンのソフトウェアを有するものがあるかもしれない。監査で見つかったこのようなソフトウェアの「不法な」コピーに

基いて、BSA の弁護士は、一般に次に、BSA が行う不法ソフトウェアの年次検査、および会員企業のための努力と和解を称える BSA プレスリリースへの同意のように他の負担を伴う義務に加えて金銭的和解を要求する。

和解の方法

和解交渉を助ける弁護士を雇うことを強く推奨する。BSA は、以下の事項、即ち、金銭的和解、プレスリリースへの同意、会社のコンピュータの将来の監査への同意、ソフトウェア倫理規定の採用と流通、ソフトウェアの不法コピーの破壊、およびインストールされているソフトウェアの全ての残りのコピーを購入した証拠を一般に要求する。まず、多額の初期金銭的要求を見て驚いてはいけない。ソフトウェアスイートを別々にして、各プログラムを個別に説明することを BSA は慣行としている。また、要求額を 3 倍にし、弁護士費用を含めるのも慣行である。この要求は気をくじくように思えるかもしれないが、ほとんどの場合、どの事項も交渉可能である点に注意を要する。監査の特定の状況により、BSA をしっかりと押し返すのは、より有利な和解に至るのを助ける成果の上がる戦略となり得る。金銭的和解部分を当初の BSA 要求額の半分以下に交渉することが、知られていないわけではない。

BSA の著作権侵害防止の使命は、ほぼ全世界で称賛されているが、「無知な」侵害者から限定的な和解条件を搾り取るために使用される戦略は、称賛されているわけではない。会社がライセンスを受けていないソフトウェアについて承知していようと、いまいと、ソフトウェア監査手続きは、全ての規模の企業にとって頭の痛いことである。もし貴殿の会社に最近 BSA から連絡があったならば、弊所は、貴殿の会社が監査と和解手続きにあたるお手伝いをする経験と知識を有している。